

平成23・24年度

山口県大学 ML(Museum/Library) 連携事業報告

『風化させない記憶への一步～自然とともに～』

事業の目的・経緯

平成22年度、山口大学埋蔵文化財資料館と梅光学院大学博物館は山口県における大学博物館施設初の連携事業として、交流展示『EXCHANGE! 山口大学埋蔵文化財資料館 × 梅光学院大学博物館』を開催した。事業の目的は、両館の所蔵品を交換展示することにより、両校の大学生及び教職員、そして地域市民が貴重学術資料に接する機会を創出すると同時に、博物館の交流を介して下関市周辺市民に山口大学を、山口市周辺市民に梅光学院大学を周知させることであった。また、会期中にシンポジウム『中国・四国地区の大学博物館 ～いま大学の博物館が求められているもの～』を開催し、大学博物館の存在意義を問い直すとともに、MLA(博物館 [Museum] 図書館 [Library] 文書館 [Archives]) 連携の必要性等に関し討論を行った。

平成22年度事業を終え、次年度の展開を模索していた平成23年3月11日、未曾有の災害が東日本を襲った。東日本大震災である。各種報道により知らされる被災地の深刻な状況に対し、山口県の大学博物館ができることは何であろうか。両館がたどり着いたのは「東日本から遠く離れた本州最西端にいる我々に、直接的にできる支援は限られる。しかし「忘れない」ことは我々にもできるし、山口県の誰もができる」という結論であった。

この結論から、東日本大震災を決して過去の記憶としないことを目的に、平成23年度の事業として「人と自然との共生」をテーマとした企画展『風化させない記憶への一步～自然とともに～』を開催することが決定された。山口大学図書館・山口大学埋蔵文化財資料館・梅光学院大学図書館・梅光学院大学博物館が主催となり、さらに梅光学院大学東北ボランティア実行委員会の展示協力を受け、各組織の特色を生かした展示を構築した。また山口大学(山口市)、梅光学院大学(下関市)だけでなく、より広範囲に「風化させない」思いを伝えるため、山口県大学図書館協議会との連携により、県内4大学に展示を巡回させることとなった。

巡回展示は東日本大震災後1年となる平成24年3月11日にスタートすることに決まり、結果として年度をまたぐ活動となった。各会場では被災地への義援金を募ると同時に、被災者・被災地への思いをメッセージ書き込んでいただくこととした。当事業は「風化させない記憶への一步」であると同時に、山口県の大学 ML 連携活動の第一歩にもなっている。事業は1年間に及び、多岐にわたる活動となったが、以下にその全スケジュールを記載する。

活動スケジュール

○巡回展示

【県央部：山口大学会場】 山口大学埋蔵文化財資料館・図書館
会期：平成24年3月11日(日)～4月27日(金)
ミュージアムトーク：4月7日(土)14時～15時30分

【県西部：梅光学院大学会場】 梅光学院大学博物館・図書館
梅光学院中学校高等学校図書館
会期：平成24年5月11日(金)～6月26日(火)
ミュージアムトーク：5月19日(土)10時30分～12時

【県東部：徳山大学会場】 徳山大学本館1階ロビー・図書館
会期：平成24年7月2日(月)～8月10日(金)
ミュージアムトーク：7月14日(土)10時30分～12時、7月21日(土)14時～16時

【県北部：山口福祉文化大学】 山口福祉文化大学図書館
会期：10月1日(月)～11月9日(金)
ミュージアムトーク：11月4日(日)10時30分～12時

○関連事業

【特別講演会】 平成24年5月19日(土)13時30分～15時
於：梅光学院大学スタージェスホール
「梅光学院大学東北ボランティア実行委員会の大学生による復旧活動の報告」
「今、『雨ニモマケズ』をどう読むか」中野新治(梅光学院大学教授)

【共催イベント】 平成24年6月20日(水)12時45分～13時15分
於：梅光学院大学博物館
「ハンドベル部&セル・コール部 ジョイントミニコンサート ♪賢治の音楽会♪」

○成果報告事業

【第14回図書館総合展】 平成24年11月20日～22日 於：パシフィコ横浜
「ポスターセッション」に参加

【被災地における活動】 平成25年2月19日(火)～21日(木)

「事業報告・メッセージ布等贈呈」於：東北学院大学
「大学博物館・図書館視察」於：東北学院大学博物館・図書館、東北大学図書館、宮城教育大学図書館、東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館
「被災地視察」於：宮城県仙台市荒浜地区

【文部科学省 東日本大震災復興支援イベント～教育・研究期間としてできること、そしてこれから～】

平成25年3月11日(月) 於：文部科学省庁舎中央広場
「東日本大震災 復興支援フォーラム」に参加



『風化させない記憶への一步～自然とともに～』ポスター

山口大学会場 会期：平成24年3月11日(日)～4月27日(金)

東日本大震災より1年後の3月11日(日)、山口県大学 ML 連携企画巡回展は山口大学にて開幕を迎えた。

山口大学会場は、展示スペースの問題から吉田キャンパス(山口市所在)の山口大学埋蔵文化財資料館展示室と図書館1階ロビーの2ヶ所を会場とした。山口大学埋蔵文化財資料館・梅光学院大学博物館・梅光学院大学図書館が前者を会場とし、山口大学図書館・梅光学院大学東北ボランティア実行委員会が後者を会場とすることになった。

【山口大学展示趣旨】

今回の展示は、「自然との共生」がテーマとなっている。山口大学埋蔵文化財資料館は、博物館施設ではあるが収蔵品が埋蔵文化財(考古資料)に特化している。埋蔵文化財は人類生活に直結した資料であるため、いずれの資料を選定しても「自然との共生」に結びつけることは可能であるが、今回の震災の大きな要因が巨大津波であることを鑑み、海をテーマに展示を構成することとなった。島国である日本では、人々は度重なる海の恐怖に直面しながらも、海の恵みを得続け、海とともに命を繋いできた。被災地の方々、特に小さな子ども達は今海に恐怖し、海を憎んでいるかも知れない。それでも再び海とともに生命を営めるよう願いを込めて『海と生きる～遺跡出土品に見る海の恵み～』と題し、山口県瀬戸内沿岸部出土の土器製塩関連資料と蛸壺漁関連資料の展示を行った。

山口大学図書館では、山口大学で行われている災害・防災についての様々な研究成果の公開や、関連資料の収集を行っている。また、所蔵している古文書からは、江戸時代に山口で起こった災害と、防災に尽力してきた人々の歴史について知ることができる。

今回の展示では、災害や防災について改めて考える切欠となることを願い、「災害の歴史と防災」と題して、日本の災害史、山口市の防災史、山口大学の防災研究、周辺地域のハザードマップ等を紹介した。

【全体構成】

図書館会場では、梅光学院大学ボランティア実行委員会が被災地で行った活動のパネル展示後に山口大学の災害の歴史と防災研究の解説を行った山口大学図書館展示が続く構成であったため、観覧者からは高評であった。一方埋蔵文化財資料館会場では、左手に梅光学院大学博物館による大正期の梅光女学院旧教諭、藤山一雄氏の敗戦・復興関連の資料群の解説展示、右手に梅光学院大学図書館による宮澤賢治「雨ニモマケズ」の紹介と解説、奥手に山口大学埋蔵文化財資料館による埋蔵文化財展示となったため、観覧者からは「コンセプトが伝わりづらい」との声が多数寄せられた。

【関連事業】

4月7日(土)14時より、ミュージアムトークを開催した。両会場合わせて11名と少数であったが、時間をかけて趣旨および展示資料の説明を実施した。

また、山口大学会場以降全会場を通じて、観覧者に被災地へのメッセージを募集した。それとともに、募金箱を設置し、被災地への義援金を募った。義援金は4会場を通じて103,083円に達した。この義援金は、永見昌代氏(梅光学院大学図書館司書長)の尽力により、当初の目的通り平成25年3月7日付けで「公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団<東日本大震災被災文化財の救援と復旧のため>」宛に送金を行った。

【観覧者の声】

山口大学会場では、アンケート調査にて様々な声が寄せられた。以下にその一部を紹介する。

問 被災者・被災地に向けて、「今あなたができること」「しようと思っていること」を教えてください

「応援するだけで済まされる問題ではないことなので、なるべく具体的な支援ができればと思っています」(大学生女性：福岡県)

「西日本をしっかり支えて東日本を応援する」(大学教職員女性：山口県)

「募金箱があれば必ずお金を入れるようにしています。被災者が苦しい現状を乗り越えられるよう祈ります」(大学生女性：福岡県)

「春にボランティアに行く予定」(一般女性：東京)

「震災を忘れない。自分の身に起こったときに生かす」(高校生男性：徳島)

「このような貴重な展示をありがとうございます。復興に向けて頑張っていきます」(一般男性：宮城県石巻市)



山口大学埋蔵文化財資料館展示
『海と生きる～遺跡出土品に見る海の恵み～』



山口大学図書館展示
『災害の歴史と防災』



平成24年4月7日(土)開催
ミュージアムトークの様様



被災地支援募金箱と
募金協力者への記念缶バッジ

梅光学院大学会場 会期：平成24年5月11日(金)～6月16日(火)

5月11日(金)、山口県大学 ML 連携企画巡回展は第2会場として梅光学院大学にて、37日間(開館日数)の日程で開催した。梅光学院大学会場は東駅キャンパス(下関市所在)の梅光学院大学博物館展示室を主会場に、梅光学院大学東北ボランティア実行委員会・梅光学院大学図書館・梅光学院大学博物館・山口大学埋蔵文化財資料館・山口大学図書館の順路で5展示を一堂に公開した。

本会場では図書館と博物館の建物構造が複合館である利点から、各施設利用者が本事業内容を認知、来場へとつながる動線を生み、782名の展示室入館者数を得た。また梅光学院中学校・高等学校図書館(下関市丸山町所在)では、事業趣旨と展示案内パネル、メッセージ布、被災地支援募金箱を置いた展示コーナーを5月19日(土)まで、14日間開催、本事業に協力をいただき、下関市域の生徒、児童による観覧者も見受けられた。

【梅光学院大学展示趣旨】

一つひとつの事柄を後世に紡ぐ「風化させない記憶への一歩」という行為は、これまでの博物館と図書館の役割のなかにも存在するが、東日本大震災で受けた未曾有の災害は、紡ぐ行為に更なる切実をもって受け止められている。

梅光学院大学博物館は、被災地の人々が寄せる希望と復興への心に繋げる展示として、敗戦後の日本を創生した大勢の先人達の「希望と復興」に添わせた内容で構築した。『藤山一雄の<周東のヒヨコ>～明日を生きる～』と題した展示は、大正期の梅光女学院旧教諭、藤山一雄氏が旧満洲(中国東北部)の引揚げから地域と人の復興に尽力した戦後10年間の軌跡を、自筆原稿等含む資料24点を通して展示紹介を行った。

梅光学院大学図書館では山口から発信する復興への思いが、賢治の故郷まで届くことを祈り「宮澤賢治～雨ニモマケズ」の展示を行った。復興へ向けた再生において「雨ニモマケズ」が紹介され、人々の心の支えや癒しとなり、この「雨ニモマケズ」手帳の原本(展示品は復元版)を通して、賢治の心からの祈りを紹介した。

【全体構成】

2階にある展示会場では5つの既存展示を配置し、会場への導入部として、1階フロアには東日本大震災直後に発行した新聞報道記事を展示、併せて2011年9月に梅光学院大学東北ボランティア実行委員会が東北被災地支援を行った被災地の現状がわかる活動写真も館内壁面に掲示した。

本会場から設置したパネルは、山口大学埋蔵文化財資料館会場で「展示コンセプトの伝わりづらさ」の声をを受けて作成し、各展示のキーワード「忘れない」「祈り」「希望」「知恵」「見つめる」を図化して、共通テーマによる展覧会であることを示した。また博物館の出展目録と兼ねたリーフレットも作成、配布した。

【関連事業】

梅光学院大学会場では5月19日(土)、ミュージアムトークと特別講演会の2事業を開催した。

10時30分より、展示担当者6名によるミュージアムトークを行った。博物館展示室を会場に一般者をはじめ、博物館学、図書館学の履修学生など、40名以上の満場の中で実施した。トークは1コーナー約20分に設定し、順路に従い、資料説明を開始した。その40分後、会場熱気と休憩用の椅子不足も起因し、来場者に急患が発生し、会場は一時騒然、急患対応のため、トークを一時中断した。トークは15分後に再開、12時に終了した。「ML 連携企画巡回展特別講演会・「今、『雨ニモマケズ』をどう読むか」の実施詳細については6頁を参照。

【観覧者の声】

アンケート調査にて寄せられた声の一部を以下に紹介する。

問 被災者・被災地に向けて、「今あなたができること」「しようと思っていること」を教えてください

「祈りと、ぼ金をがんばります。できれば、お役に立ちたいです。がんばれ東北！」(中学生女性：山口県)
「行ってみること、「頑張る」のは私たち支援者であることを、広げること」(一般女性：福岡県)



梅光学院大学博物館展示
『藤山一雄の<周東のヒヨコ>～明日を生きる～』



梅光学院大学図書館展示
『宮澤賢治～雨ニモマケズ～』



平成24年5月19日(土)開催
ミュージアムトークの様様



梅光学院中学校・高等学校図書館会場の様様

徳山大学会場 会期：平成24年7月2日（月）～8月10日（金）

【全体構成】

徳山大学での展示は、図書館のみでは展示スペースの確保ができないこともあり、大学事務に相談したところ、本館管理棟1階玄関ロビーを借り受けることができ、図書館と本館管理棟の2ヶ所で行うことになった。

展示物や展示パネルの内容から、山口大学図書館・埋蔵文化財資料館は本館管理棟1階玄関ロビーで、また梅光学院大学図書館・博物館並びに東北ボランティア実行委員会は図書館1階ホールでそれぞれ分散して展示会を開催した。

また、開催にあたり展示ボードや展示ケースの搬入を山口大学の2トントラックで行ったが、1回に運べる量が限られるため、1日に2往復するなど、かなりの作業となった。さらに、このトラックはこの季節にしてエアコンが効かず、暑い日を身をもって体験する羽目になった。

【関連事業】

ミュージアムトークは、学生、保護者および一般市民の方々が足を運びやすいオープンキャンパスに合わせて行う予定で当初7月14日（土）に計画していたが、オープンキャンパスの日程が21日（土）に変更となったことや、既にパンフレット等で14日に開催することが広報されていたこともあり、急遽2週連続で行うことになった。

また会期中には、メッセージボードを設置し、被災地へのメッセージとして自分たちが思っている東日本大震災に対する想いを多数書き込んでもらい、風化させないことへの大切さを伝えることができたと感じた。

【観覧者の声】

徳山大学のみなさんの広報もあり、多数の学内の教職員をはじめ、学生達も足を留めて展示を見られていた。さらに一部は本館管理棟で開催ということもあり、来客者や大学出入りの業者の方々にも目に留まり、熱心見られていたとのことであった。

また、徳山大学の立地場所が山の中腹であり、市街地から少し離れていたにもかかわらず多数の観覧者があった。徳山大学の関係者の方々のご協力により無事会期を終えることができたことに感謝している。

以下にアンケート調査にて寄せられた声の一部を紹介する。

問 被災者・被災地に向けて、「今あなたができること」「しようと思っていること」を教えてください

「震災があったことを忘れないでおく」（大学生男性：山口県）

「少々の寄付金」（一般男性：山口県）

「ボランティア」（一般男性：山口県）

問 今回の展示で、一番印象に残った展示物は何ですか

「阿部さん宅でのボランティア活動」（大学生女性：山口県）

「宮澤賢治の雨ニモマケズ」（一般男性：山口県）

「全て」（大学生男性：山口県）

編集後記

前2会場は主催組織が所属する大学での展示であったため、展示レイアウトも比較的円滑に構成することができた。徳山大学会場では、事前視察を行った際に本館1階ロビーと図書館ロビーの施設図面をいただいたが、頻繁に現地確認が行えないことに戸惑いを感じた。当然ながら机上レイアウトと実空間との間には大きな相違があり、現地での展示構築中に様々な軌道修正が必要となった。

会期中の展示空間の様子は知る術がないが、寄せられたメッセージや募金額から、徳山大学の皆さま、そして地域住民の皆さまが、被災者の方々や被災地に対し、熱い想いを抱いていることが感じられた。

また、管理の手が届かない場所での文化財展示に一抹の不安を感じていたが、徳山大学教職員、学生の方々に非常に丁寧に取り扱っていただいた。記して感謝の意を表したい。今後も、学術資料を素材とした大学間交流を促進していくべきと感じている。



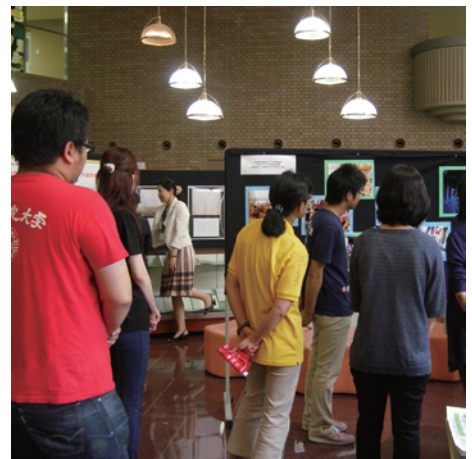
徳山大学図書館会場展示模様



徳山大学本館ロビー1階展示模様



徳山大学1階ロビーミュージアムトーク模様



徳山大学図書館ミュージアムトークの様相

山口福祉文化大学会場 会期：平成24年10月1日（月）～11月9日（金）

【全体構成】

山口福祉文化大学附属図書館のロビーを会場として展示会を開催した。山口福祉文化大学では、巡回展全4会場のうち最も広い会場を用意していただき、山口大学・梅光学院大学から展示台や照明、パネルの追加分を搬入して展示を行った。

普段はない照明等を設置したことでロビーの雰囲気が変わり、来館した教員や学生達のうち足を止める方が多く、それぞれの展示を熱心に見られていたとのことだった。

【関連事業】

ミュージアムトークは大学祭（喜福祭）と同日の11月4日（日）に開催した。関係の皆様にご案内いただいたこともあって30名以上の参加があった。

巡回展最後のミュージアムトークということもあり、各団体の担当者による熱のこもったトークが行われ、参加者はパンフレットを片手に真剣に聞き入っていた。

終了後には参加者から各担当者に対して質問や感想が多く寄せられ、非常に盛況なミュージアムトークとなった。展示の内容に対する質問の他にも、震災当時のことや、戦後の復興に関するお話を伺い、またボランティアを行っている山口福祉文化大学の学生から現地のお話を聞かせていただくなど、このミュージアムトークを通して参加者の方々の震災や復興への想いを聞き、共有することができた。

【観覧者の声】

開催にあたっては、山口福祉文化大学の関係者の方々に多大なご協力を賜り、無事会期を終えることができた。アンケート調査にて寄せられた声の一部を以下に紹介する。

問 被災者・被災地に向けて、「今あなたができること」「しようと思っていること」を教えてください

「募金活動」（一般男性：山口県）

「今の私には何も出来ませんが、今話題になっている政府の復興予算は東北の復興の為に役立てて欲しいと思います」（一般男性：山口県）

「思い続けること」（一般女性：山口県）

問 今回の展示で、一番印象に残った展示物は何ですか

「ヒヨコと古代の海辺」（一般女性：山口県）

「藤山家に残るリュックサックと一つの卵の原稿」（一般男性：山口県）

「東北ボランティアの写真等」（一般男性：山口県）

問 大学博物館、図書館にどのような役割を期待しますか

「(博物館・図書館とも) 今回は萩市報で知りましたが、広報誌等で一般の人が多く利用できる様にPRして欲しいと思います」（一般男性：山口県）

「(博物館) 学識の普及 (図書館) 知の宝庫として」（一般女性：山口県）

「(博物館・図書館とも) 国民に調和の精神をもって生きる力を与える役割」（一般男性：山口県）

「(図書館) 県内の優れた人材の発掘と、情報の提供」（教職員男性：山口県）

編集後記

元来大学数の少ない山口県においては、県北部域の会場は山口福祉文化大学しか選択肢にない状況であったが、山口福祉文化大学図書館長、館員の多大なる協力により、無事展示を開催することができた。

4会場目ということもあってか、どこか心に油断があったようで、展示設営や撤収作業にはミスが相次いだことも思い出される。特に山口大学埋蔵文化財資料館員は、設営時に展示ケースの鍵を忘れ、翌日再度会場に展示設営に訪れるという失態をおかし、懲りぬことに撤収時も展示ケースの鍵を忘れ、山口ー萩片道40kmの道のりを、2往復するという有様であった。

そのような混乱の中でも、山口福祉文化大学関係者の皆さまに笑顔で対応いただいた。ここにお詫び申し上げるとともに、次年度以降も継続予定である山口県大学 ML 連携事業においても、さらなる共同・協力をお願い申し上げる次第である。



会場となった山口福祉文化大学図書館



図書館ロビーでの展示模様



ミュージアムトークの様①



ミュージアムトークの様②

関連事業

梅光学院大学会場では、会期中に2つの事業を行った。

【特別講演会】平成24年5月19日(土)13時30分～15時

於：梅光学院大学スタージェスホール 来場者数：100名

①「梅光学院大学東北ボランティア実行委員会の大学生による復旧活動の報告」

梅光学院大学では、震災の4日後の本学大学での卒業式から宗教委員会の学生を中心に、被災支援のための学内外での募金活動を始めた。そして「東北ボランティア実行委員会」として平成23年9月5日～10日に有志の教職員と学生の31名がバスで宮城県の各地へ行き、土砂の書き出しや個人宅の清掃、幼稚園児との交流会を行った。帰学後は、学内外でその様子をつぶさに報告し、見たことや感じたこと、経験したことを様々な場所で話した。このたびのML連携事業でも、そのうちの4名の学生(竹下葵、桑原浩平、岩永麻衣子、福原一樹)が写真と映像で報告を行った。

②「今、『雨ニモマケズ』をどう読むか」

本学教授で、日本近代文学を専門としている中野新治先生に御講演していただいた。中でも先生は宮澤賢治研究に力を入れられ1995年には宮澤賢治賞奨励賞(宮澤賢治学会イーハトーブセンター主催)を受賞されている。このたびの梅光学院大学図書館展示の『雨ニモマケズ手帳』は、先生の研究として購入したもの。賢治が生涯を過ごした花巻の地は、賢治が生まれる以前から地震や津波に幾度も襲われているという過酷な所であった。手帳に書かれた賢治の筆跡から、どのような想いで綴ったのかそして何を伝えたかったのかをお話しいただいた。



梅光学院大学東北ボランティア実行委員会報告の様様



中野新治先生講演の様様

【共催イベント】平成24年6月29日(水)12時45分～13時15分

於：梅光学院大学博物館 来場者数：20名

「賢治の音楽会 ～ハンドベル部&セシル・コール部ジョイントコンサート」

宮澤賢治は、「星めぐりの歌」を始め作曲も行ってた。また『銀河鉄道の夜』には、讃美歌の一節が書かれており、愛唱していた。その中から、讃美歌3曲と「星めぐりの歌」「剣舞の歌」をハンドベルの演奏と合唱で披露した。博物館内での展示物を前にしての演奏には、奏者も聴衆も東北の地へ思いを馳せることになった。あいにく、館内の空調の関係で入館者数を限定したため、聴けなくて残念との声もあったので、CDに録音することにした。このCDは巡回展示の会場でBGMで流したりした。そして平成25年2月19日に訪問した東北学院大学にてメッセージ布とともに贈呈した。



コンサートの様様①



コンサートの様様②

梅光学院大学東北ボランティア実行委員会の取り組み

東北ボランティア実行委員会は、2011年3月11日に起きた東日本大震災を受け、学生たちで委員会を立ち上げ、同年9月5日～10日の6日間、宮城県気仙沼市で住宅の清掃活動や引越しのお手伝い、教会や幼稚園への訪問を行なった。被災地で出会った人々のことをたくさん知っていただきたいと、山口県ML連携企画巡回展事業に参加させていただいた。

【展示活動】

東北ボランティア実行委員会は「忘れない」というテーマで、東北被災地のボランティア活動を行った時の被災地の現状写真を使ったパネルや使用した活動着等を展示した。4会場では8名(牧田・竹下・桑原・大森・神尾・岩永・福原・岡村)がミュージアムトークを行った。

【徳山会場のトーク感想より】

「現地の支援活動をしてから一年、帰校後の私達は、様々な諸活動を通していろんな人に現地の様子を知ってもらった活動を始めた。しかし、時間の経過とともに私達自身も忘れかけている事があった。このML連携企画巡回展が『あの一年前を思い出すきっかけになった』と徳山会場でのミュージアムトークに参加した学生の一人が語ってくれた。その言葉の通り、伝えていく事が私達にとっても現地を思い出し、忘れない一つのきっかけになっていた。まさに風化させない記憶への一歩。これからも私達は自分達の体験、経験を語っていく事で、この3.11の東日本大震災を少しでも人々の心に残るように活動していく。」(東北ボランティア：大学院生・牧田)

【第14回図書館総合展】

11月20日(火)～22日(木)、山口県大学ML連携事業としてパシフィコ横浜で開催された「第14回図書館総合展」にパネル出展した。会場では、被災地復興の取り組みに関するフォーラムや資料が紹介され、東北ボランティア実行委員会は4名がポスターセッションに参加した。ここでは巡回展の成果報告を中心にしたパネルを出展、口頭発表では巡回展の経緯やパネルには載せられなかった内容を会場の皆さんに伝えた。

【東北ボランティア活動】

2013年3月19日(月)～21日(水)宮城県仙台市内の実活動には6名(竹下・桑原・神尾・岡村・大森・澤野)が参加した。現地では東北学院大学災害ボランティアステーション、浄土真宗本願寺派(西本願寺)東北教区災害ボランティアセンター、震災復興ボランティア団体「おもいでかえる」、一般社団法人「ReRoots」の皆様から現状様々なお話を伺い、実活動では御指導と御教示をいただいた。

<19日>

15時50分～17時

東北学院大学にてML連携事業におけるボランティア活動の報告会と意見交換を行う。

<20日>

8時30分

9時40分～16時

東北教区災害ボランティアセンター到着ボランティア団体「おもいでかえる」の活動場所へ移動。3/1～11展示会で使用する写真の清掃作業を行う。

16時5分～16時50分

被災地「荒浜地区」を「おもいでかえる」のスタッフと一緒に見学。

18時～30分

東北教区災害ボランティアセンターで報告会。作業内容の報告と感想を述べる。報告書を提出。

<21日>

10時～11時

一般社団法人「ReRoots(リルーツ)」の活動場所へ。現在の被災状況や活動内容などを伺う。



梅光学院大学会場での展示解説模様
(梅光学院大学オープンキャンパス時)



山口福祉文化大学会場でのミュージアムトーク



東北学院大学での活動報告



ボランティア活動模様
(写真清掃作業)

被災地における活動

山口県内巡回展示を終え、当初の計画通り、被災地にて事業報告を実施することとなった。東北の会場は守井典子氏（日本博物館協会）にご便宜を頂き、佐藤睦子氏（梅光学院大学博物館）の調整により、下記のスケジュールにて活動を行った。なお、初日は梅光学院大学東北ボランティア実行委員会学生6名も参加した。

【平成25年2月19日（火）】

15時30分

東北学院大学集合

15時50分～16時10分

東北学院大学災害ボランティアステーション 学生による事業報告

16時10分～16時30分

佐藤司氏（尚綱学院大学職員）による事例報告『学生ボランティア×復興』

16時35分～17時00分

梅光学院大学東北ボランティア実行委員会 学生による事業報告

17時00分～17時45分

其田雅美氏（東北学院大学ボランティアステーション担当職員）による報告『復興支援の想いをつなぐ・かちにする～被災地域内の大学が果たすべき役割～』

17時50分～18時30分

山口県大学 ML 連携事業成果パネル展示

4会場メッセージ布・義援金用缶バッジ等の贈呈

【平成25年2月20日（水）】

博物館チーム・図書館チームに分かれての大学博物館・図書館視察・博物館チーム

10時～12時45分 東北学院大学博物館

辻秀人氏（博物館長：考古学）・加藤幸治氏（文学部准教授：民俗学）等スタッフの方々に、震災当時の博物館の状況、文化財レスキューを含めたその後の活動内容、津波災害に関する提言など様々なお話しを伺った。

13時00分～15時10分 東北大学史料館

史料館は震災復旧等の改修工事により、川内キャンパス図書館2号館へ一時業務を移転。2013年春に開館予定。永田英明氏（史料館准教授：日本史）に、震災前後の施設状況と業務の現状、実習教育、MLA 連携等の事例を伺った。

16時00分～18時20分 東北福祉大学芹沢圭介美術工芸館

本田秋子氏（係長・学芸員）に、震災当時の館の状況、震災後の対応処置、その他宮城県・仙台市における大学博物館の連携状況、収蔵資料に関連する他館との連携など幅広くお話しを伺った。

・図書館チーム

10時00分～12時00分 東北学院大学図書館

須田充宏氏（図書情報課 係長）と庄子隆弘氏（図書館業務委託担当 MULU メンバー）に、図書館内を案内していただいた後、早坂孝司氏（図書情報課 課長）を交えて図書館連携事業等図書館活動についての意見交換を行った。

13時30分～15時30分 東北大学附属図書館

豊田裕昭氏（情報サービス課長）と図書館活動について意見交換を行った。また、館内案内では特にラーニング commons の運営体制や学修支援について詳しくお話を伺った。

15時30分～17時30分 宮城教育大学図書館

佐藤初美氏（学術情報課長）と吉植庄栄氏（学術情報管理係 係長）から、図書館活動についてお話を伺った。特に、図書館ボランティア（MUE'S）の活動について種々意見交換を行った。

【平成25年2月21日（木）】

9時50分～10時45分

被災地の復興の状況を知るため、仙台市荒浜地区南長沼周辺の訪問を行った。一帯は津波によって田畑、家のほとんどが押し流されたと聞く。現在瓦礫の撤去作業が進められており、田畑には新たな土が入られているようであった。

日程が限られた中での被災地訪問であったが、現地の博物館・図書館・ボランティアスタッフの方々から拝聴し、山口県に託された多くの言葉・想いを、今後とも山口県大学 ML 連携事業の中で発信し、繋いでいく所存である。



メッセージ布・募金協力缶バッジの贈呈
（於：東北学院大学）



事業成果報告展（パネル展示）
（於：東北学院大学）



被災地訪問
（於：仙台市荒浜地区南長沼周辺）

平成 23・24 年度 山口県大学 ML 連携事業報告

風化させない記憶への一歩
～自然とともに～

【編集・発行】

山口大学埋蔵文化財資料館

〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1

【Tel/Fax】083-933-5035

【E-mail】yuam@yamaguchi-u.ac.jp

【HP】http://yuam.oai.yamaguchi-u.ac.jp

発行年月日 2013. 3. 29.